

### 令和3年度第1回みよし市総合教育会議 会議録

日 時	令和4年2月18日（金）午後1時15分から午後2時30分まで	
場 所	みよし市役所6階 601・602会議室	
出席者	市長：小山 祐 教育長：今瀬良江 教育長職務代理者：原口百合子 教育委員：鈴木千郷、近藤憲司、加藤知子	
出席した職員	政策推進部長：村田信光、政策推進部参事：澤田圭紀、 政策推進部次長兼企画政策課長：富田泰隆  教育部長：深津弘樹、教育部参事：新美貴宏、 教育部次長兼教育行政課長：岡田高行、歴史民俗資料館長：村山孝文、 学校教育課長：江上俊郎、学校給食センター所長：水野茂正、 スポーツ課長：甲村 聡、生涯学習推進課長兼中央図書館長：橋本慎一郎 学校教育課（コミュニティ・スクール担当）山内陽二	
書 記	書記 教育行政課副主幹：西世古貴志	
傍 聴 者	なし	
開 会	企画政策課長	ただ今から令和3年度第1回みよし市総合教育会議を開会いたします。本日の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定により公開とさせていただいております。それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。はじめに、小山市長があいさつを申し上げます。
市長挨拶	市 長	本日はご多忙の中、総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。この総合教育会議は首長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議調整の場です。本日は大きく二つ議題があり、皆様のご意見を聞かせていただき、教育行政に反映させていくということで、開催をさせていただいております。 首長と教育委員会が協議調整することにより、両者が教育政策の方向性を共有して執行するということが大変重要な会議だと思っております。ぜひ皆様から、忌憚のないご意見、ご提案などもお寄せいただければと思います。
	企画政策課長	ありがとうございます。続きまして、今瀬教育長よりあいさつをお願いいたします。
教育長挨拶	教 育 長	本日は第1回総合教育会議を開催していただきまして、ありがとうございます。 この総合教育会議は、市長と教育委員会が対等な立場で意見交換するとい

<p>議 事</p> <p>議 題 ( 1 ) 「みよし市教育に関する大綱の確認について」</p>	<p>企画政策課長</p> <p>議長 (市長)</p> <p>議長 (市長)</p>	<p>う大切な会議であります。</p> <p>この中で、子どもたちの未来のためにより良い考えを共有できて、さらに、教育施策を推進できたらと思っております。</p> <p>教育政策の大きな柱であります教育振興基本計画につきましては着実に進んでおります。</p> <p>この2月に開催する予定でした教育振興基本計画推進委員会は書面会議になりましたが、各部署における進行状況は計画通り進んでおり、子どもたちの教育環境の整備と充実が進んでいることを実感しております。</p> <p>また、今回は市長が代わられたということで大綱についての意見交換ができればと思っておりますし、来年度から進めますコミュニティ・スクールについては、市長部局との共通理解を図らなければ進められないため、良いものにできたらと思っております。</p> <p>ありがとうございました。ただ今から議事に入りますが、「みよし市総合教育会議運営要領」第4条第1項の規定によりまして、この後の議事につきましては、小山市長に議長をお願いいたします。よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、議長として議事の取り回しをさせていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。なお、会議録の作成につきましては、みよし市総合教育会議運営要領第7条の規定に基づき、教育行政課西世古副主幹にお願いします。</p> <p>最初に、議題(1)「みよし市教育に関する大綱の確認について」を議題といたします。</p> <p>お手元にみよし市教育に関する大綱という資料をお配りさせていただいております。</p> <p>1枚目が現行のもの、2枚目が改定案となっております。</p> <p>大きく変更する点は2点ございます。</p> <p>まず、教育に関する大綱の策定について。大きな柱としては変わっておりませんが、一番最後の「教育に関する大綱に基づき」の前に、「SDGs(持続可能な開発目標)の視点も踏まえ」という文言を記載させていただいております。</p> <p>また、三本の柱自体は変わっておりませんが、「次代を担う子どもをみんなで大切に育てると」という項目の一番頭に、「共に育み、育てる、育ち合う「共育」、協力して育み、育てる、育ち合う「協育」の理念の下、」という言葉掲げさせていただいております。</p> <p>この変更の理由といたしまして、みよし教育プランは、平成28年度から令和7年度までの10年計画で位置付けられておりますが、その中間見直し、令和3年3月に行われました。</p> <p>1点目のSDGsの関係につきましては、本市の総合計画の中でも、SDGsを踏まえた施策の推進ということを掲げさせていただいており、みよし教育プランの中でも、中間見直しでSDGsの視点を盛り込んでいただいている点を踏まえて、追加して記載したらどうかと提案しております。</p>
---	---	--

		<p>2点目の「共育」と「協育」の追加であります、こちらにつきましても、中間見直しの中で、計画の基本的な考えの中にこの文言も入れていただいておりますので、この点も踏まえて、教育に関する大綱の変更を提案させていただきます。</p>
議長（市長）		<p>それでは、委員の皆様は挙手のうえ、ご発言をお願いいたします。</p>
近藤委員		<p>大綱の3番目の「ふるさとみよし」について、行政区の行事などに関わっていると、昔と比べだんだん弱くなっているような気がします。</p> <p>行政的には住み良いまちという面ではトップレベルに来ていると思いますが、住み良いということと、ふるさとみよしを感じるということはちょっと別のような気がしています。私は行政区としては福谷ですけども、いろいろなイベントなどの参加率がだんだん減ってきています。</p> <p>一人一人がこの地域を良くしていこうという意識が弱くなっていると思いますので、根本的にメスを入れて、行政がそれをどうフォローしていくかという取組や、地域任せではなくて、市の方針としてうまく回っていくようなシステムを作っていくことが、未来を担う子どもたちの教育や社会教育を含めて、すごく大事になってきているのではないかと思います。</p> <p>豊かになったけど、根幹の部分が弱くなっているという意見もあります。</p>
議長（市長）		<p>今のご意見に対して、事務局から説明がありますか。</p>
教育長		<p>近藤委員の言われるように、子どものうちからみよしの良さを学んでおくということは、まずはみよしを「ふるさと」として、大事にしたいという気持ちを育むことであろうということで、教育の三本の柱に入れさせていただいております。おそらく、教育振興基本計画の中に「ふるさと」について掲載している市町村はあまりないと思います。大綱の中に、みよしをより理解して、「ふるさと」を大事にしていこうということを経として入れているということで、これはこれからの推進に大いに後押しになる柱であると思います。</p> <p>具体化するには他の部局との連携も必要だと思いますが、やはり三本目の柱はこの大綱に掲載しておくべきかなと思っています。</p>
議長（市長）		<p>他にご意見がございましたらよろしく申し上げます。</p>
近藤委員		<p>これからの学校と地域ということで、コミュニティ・スクールについてですが、学校訪問で中部小学校を訪問した時に、校長先生から、中部小学校の南側の道路を子どもたちと地域の人たちが、特に落ち葉が落ちる時期が中心に、みんなで分担して、落ち葉を拾っていると伺いました。そのような地域に貢献したという意識が、原体験として大事だと思っています。</p> <p>学校教育では、自然の中で学んできた昔の子どもと違って、現代の子どもはそのような経験が少ないため、社会科や理科が、生活科に一本化されることで、原体験をしていくことになるとは思います、このコミュニティ・スクールを進めることで、原体験がかなり増えてくることになるとは思います。</p>

		<p>そのため、小さいうちから地域の人と一緒に生活している、また、地域の人に支えられているという一体感の原体験が、子どもが大人になった時に、自分たちもこの「おらがみよしのために」とか、「おらがこの辺の地域のために」やっていくという大事なベースとなります。</p> <p>子どもの意識の1番のベースに、地域で私は生きているというのを埋め込み、DNAに入れていくのはこういう経験がないと難しいと思います。</p> <p>そのようなものはそのままにしておくで薄れていってしまうので、それはある種の行政の力で、種を埋め込んでおかないと、住み良いまちだけど、それは市役所にやってもらうこと、自分たちでやっていかなきゃいけないという意識がなくなってしまうと思います。</p> <p>自分のお店の前の道路についても綺麗にしていだける人と、これは行政のやる仕事だから草も取らないし、ごみが落ちていてもそれは私のことじゃないという人たちとの間には、自分のところの前は行政に任せておいては駄目だから、自分でやらなければいけないという基本的な考え方の違いがあります。こういった原体験を教育の中に埋め込んでいくことを市としてこの活動を応援していかないといけないので、文部科学省も旗は振っていますが、それ以上にみよし市として支援していただけたらと思います。</p>
議長（市長）		<p>ありがとうございました。コミュニティ・スクールについては、次の議題としてあげておりますので、そこで改めてご意見をいただければと思います。</p> <p>それでは、教育に関する大綱の確認につきまして、他の方からのご意見はよろしいでしょうか。</p>
原口委員		<p>近藤委員が言われたように、福谷行政区は地元の方も多いですが、三好丘などの新しい地区は、親御さんもみよし市以外から来て、子どももみよし市で育つけれども、育つ一過程でしかなく、そのままみよし市以外の土地に行かれる方も多くて、近隣の豊田市の浄水や日進市などに行かれる方も多いです。そのような子どもたちにとってはみよし市の魅力が少し欠けているのかなと感じる部分もあるので、魅力あるまちづくりをして、みんなにふるさとみよしを思ってもらい、みよし市にそのまま住んでもらう、もしくは、帰ってきたときに、みよし市を懐かしく思ってもらえるように、魅力あるまちづくりをぜひお願いしたいです。</p>
議長（市長）		<p>ありがとうございます。他の委員の方よろしいですか。</p>
加藤委員		<p>三本の柱のIについて、子育てをしている親としては、このように育ってくれたらいいなと思います。6つの事柄に子どもがあてはまって、これからいろいろな事業があつて、地域の人との触れ合いができるようになればいいなと思います。</p>
議長（市長）		<p>ありがとうございます。他の委員の方よろしいですか。</p>
近藤委員		<p>教育の部分で、人間が生きていく時に、生活をしていくのか、人生を生き</p>

<p>議題（２） 「みよし市版 コミュニティ・スクール について」</p>	<p>議長（市長）</p> <p>学校教育課 コミュニティ・スクール 担当</p>	<p>ていくのかっていうのは遠藤周作さんがずっと考えられた人生のテーマです。生活する場所であれば、みよし市に住んでいても、どこかへ行きたいと思えば自分が思う場所に移ればいいだけですが、みよし市が人生を生きていく場所で、みよし市と共にその人生を深めていくという観点で子どもが育っていくと、自分たちの生まれ故郷であるみよし市で何とかより良く生きていく場所にしたいというベースがあると思います。</p> <p>そのため、教育の中では、生活する場所としてのみよし市、市からのいろいろな支援がある中の教育の支援ではなくて、もう一段階深い意味でのみよし市とともに人生を歩んでいくような深い意味での教育の支援を考えていただけるといいのかなと思います。</p> <p>どのように教育をしたら一番いいのかと自分も具体的に浮かばないのですが、自分が年を取ってきて、行政などに関わりだした時に人生を生きるという考え方がベースにないと、やっぱり上面だけのものになってしまうと思います。</p> <p>そのため、人生を生きるような教育をベースに置いて、いろいろな施策を考えていけたらいいのかなあというのが最近になって思うようになってきましたので、市長さんがそういう観点を持っていろいろなこと考えていただけるといいのかなと思います。</p> <p>ありがとうございます。それではこの議題１について、他にご意見はございませんか。</p> <p>それではこちらの記載の内容について、変更ということでご了承いただけるということでもよろしかったでしょうか。</p> <p>ご了承いただいたということで、続きまして、議題（２）「みよし市版コミュニティ・スクール」を議題とします。 教育委員会事務局より説明してください。</p> <p>コミュニティ・スクールについて地域の人たちにお話をさせていただいたときに、またスクールを作るのかというような言い方で言われたり、コミュニティという言葉はいろいろなところで使われていると言われ、何かまた新たなものを作るのかという受け止め方をされるため、まだまだ認知度も低いのではないかと感じております。</p> <p>学校とはどんなところかという、基礎学力と、基本的な生活習慣を身につけるところであると先輩の教員がおっしゃっていました。</p> <p>また、今瀬教育長からは、学校とは10年後、30年後を学び合い想像する夢の舞台であるとお聞きしており、確かに未来を作るのは学校だろうと思っています。</p> <p>また、社会の縮図が学校にはあり、生活や地域などいろいろな家庭環境を抱えた子どもたちが集まってくるとお聞きした記憶もあります。</p> <p>また、学校に通わないとか、通えない子どもたちへの支援としてシエルブルーという団体ができたそうですが、そういうことまで考えるような時代になり、学校のあり方というものも変わっていくということを思いました。</p>
---	---	--

子どもを取り巻くこれからの時代は、Society 5.0など本当に変化の激しい時代です。30年後の2050年ごろには、自治体の数が減り、学校の数も地方を中心に半分くらいになり、ふるさとが消滅するような時代になってくると言われております。そのため、文部科学省に限らず、内閣府や総務省を含めて、ふるさとをつくっていきこうということでコミュニティ・スクール構想が生まれたというふうに聞いており、どちらかと言えば、地域の方でコミュニティ・スクール構想が進んでいると聞いています。

学校においても、明治5年の学制公布や昭和21年の6・3・3・4制の学制改革と並ぶくらいの大きな変化の時代だとも言われております。

また、コロナ禍ではありますが、子どもは3密で育つと私は思っております。現在はそれができない時代でありますので、この変化の激しい、また、ICTなども活用するという時代になった時、どのように教育していくのかという時に作られたのがこのみよし教育プランだと思っております。

それでは、1番目の本構想のねらいを説明させていただきます。

本市のみよし教育プランは、家庭・地域・学校が一つとなって、子どもの学びを支えていく、「学ぶ楽しさで、人と人をつなぐ」という基本理念、連携、生涯にわたる学び、人と繋がる、ふるさとみよしを作っていくというように書かれています。

これは、より良い学校教育を通じて、より良い社会をつくるという、新学習指導要領の理念と全く重なるものであります。

この新学習指導要領にある「社会に開かれた教育課程」の実現に向けては、「次世代の学校」とも言われるコミュニティ・スクール構想が、本当に意義があるものだろうということで昨年度より取組を始めさせていただきました。

社会の変化に対応するには一斉の教育ではなくて、社会総がかりで、子どもたちをみんなで育てていく「協育」というスローガンを今瀬教育長はおっしゃられておりますが、まさにそれと同じことであると思っております。

このみよし教育プランには先ほど小山市長からご説明がありましたように、次代を担う子育て、生涯にわたる教育、ふるさとみよしという三つの柱があります。

一見それぞれ独立したもののように感じますが、コミュニティ・スクール構想で連携が生まれていけば、先ほど近藤委員からご質問があったようなことに対しても、だんだん連携をしていけるのではないかという夢を私なりに持っています。

大事なことは、この取組に当たっては、新しいことや負担感を増やしたりするのではなく、これまで行ってきたことに価値付けをして、繋がりを持たせ、関わる人すべてが、熟議や連携して、みんながウィン・ウインの関係になるといいなと思っております。

無理せず、慌てず、60%ぐらいの力で進めていくことができればと思っています。

次に、令和2年度から3年度までに行ったことについてご説明をします。

まず、県内外の動向を調査しました。地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、コミュニティ・スクールの設置が努力義務とされたため、本市もコミュニティ・スクールの設置に向け、先進市であります津島市や隣

の豊田市はじめ、いろいろなところから情報いただきました。

地域によっては、豊田市のように、地域学校協働本部を先に作り、コーディネーターを配置した地区もありますが、本市としましては、まず学校の実態に合った形の、今までの学校評議員制度を基に、権限を持たせて、バージョンアップするような仕組みを考えて、みよし市版コミュニティ・スクールを立ち上げようとしています。

関係者の声を聞くために、全12小中学校の校長、市役所の関係各課、トヨタ自動車などの民間企業、いきいきクラブ、区長など各種団体と懇談を進めました。

また、活動の推進のため、三好中学校をモデル校として、学校運営協議会を立ち上げ、コーディネーターを委嘱して、地域と学校をつなぐ活動を進めました。三好中学校については、これまで魅力ある学校区づくりで研究発表をしており、比較的連携について実績があるためモデル校にさせていただきました。

これまでの取組事例について、三好中学校が中心となりますが、学年主任などとお話をして、まず生徒の思いに応えることからだろうと思いました。

昨年度、総合的な学習の中で、子どもたちが自分たちの未来を考えたいということで、東京を参考にして自分たちのまちづくりに活かすという学習を進めていたのですが、新型コロナウイルスで修学旅行が延期になり、学んだことを生かすため、みよし市のまちづくりについて聞いていただく機会は無いかとの相談を受け、総合的な学習でSDGsを生かしたまちづくりについて取り組んでいただきました。

1番目の総合的な学習「SDGsを生かした未来のまちづくり」の授業では、企画政策課にお世話になり、東海学園大学と連携して、SDGsの観点で、社会、経済、環境という三つの観点で、例えば名古屋や小原村がそれぞれ発展するためにはこの三つの観点でどうなるのかという学習を進めました。

例えば、山の中に病院や観光地を作ろうとか、飛行場を作ろうというアイデアが生徒たちから出てきました。

小原村に飛行場を作るのかと思ったら、テニスコート一面もあれば十分で、ドローンを使って荷物を運び、そのうち、おじいさんやおばあさんがドローンに乗って病院に行くような時代が来るということを発想して大変驚きました。

それを東海学園大学と連携して、教授からメッセージをもらいました。そのことに対して、生徒たちは大学の授業のようで励みになった、自分たちの声を聞いてもらえたと喜んでいました。また大学でもそれを観た学生たちが、自分たちが学んだことを小中学生向けのDVDを作成して寄贈してくれたというような連携が企画政策課を通じてできたというのは大変な成果でした。

2番目の協働推進課と市民憲章についての取組について、市民への啓発がなかなか難しいということで、協働推進課が市民憲章について生徒たちに聞いてみることになったのですが、生徒たちからは市民憲章は読まないと言われました。そのため、啓発について生徒たちに任せても良いかということになり、そのことを生徒たちに伝えたところ、グループの中からやりたい生徒を集めてくれて、自分たちで啓発動画を作成しました。

言葉も少し平易にしたり、自分たちで写真を撮りに行ったり、デザインの得意な生徒がイラストを描いたりしました。今でもこのQRコードを読み込むと動画が流れます。先日おおよし交流センターに行った時に流れていたのを観て、使っていただいているんだなと思いました。

ただ、この動画は大きい子にはいいけれども小さい子には難しいということで、市民憲章の紙芝居を生徒たちが作り、幼稚園や保育園に配り、啓発に役立てたということがありました。

3番目の防災安全課と連携した総合的な学習や4番目の環境課と連携したごみ分別アプリの「さんあ〜る」ですが、「さんあ〜る」について、アプリの登録者がそれまで800人くらいでしたが、生徒たちが啓発したら1週間も経たないうちに登録者が1,000人を超えてしまうという効果がありました。

5番目のいきいきクラブさんとの草刈り連携について、たかが草刈りですが、先ほどの中部小学校の落ち葉拾いでもありましたように、子どもたちが地域の人と一緒に何かをする、役に立ったという体験は、とてもいい活動だと思います。地域のおじいさんやおばあさんたちをお願いして参加してもらいましたが、途中で野球部やサッカー部の生徒たちからお礼を言われ、生徒たちも手伝うことになったら喜ばれて、最後にはこのような活動ならいつでも参加してもらえるとということになりました。活動の最後に校長先生がお礼の挨拶をする時に、拍手がもらえるくらい地域の方に喜ばれました。

この活動が別のところでも繋がり、トヨタ自動車さんからもお話があって、会社の会議の中で南部地区での活動を全市に広げたいということがありましたので、50名ぐらい参加者が集まって、PTAや地域の人と8月に草刈り活動を開催する予定でした。新型コロナウイルスのため中止になってしまいましたが、草刈り活動も環境整備を基にした連携として繋がっています。

6番目は地域貢献活動についてですが割愛します。

7番目のその他についてですが、文化協会と連携した短歌の授業や市民課と連携したシトラスリボンの作成活動や公園緑地課と連携したまち探検活動を手伝ってもらいました。

次に今後のことについてお話をします。

令和4年度の末までに、全4中学校へコミュニティ・スクールの設置の目的が立てられるように進めています。小学校についても数校、前倒しで準備を始めるかもしれません。

どの中学校もこれまで連携を行ってきたので、それを生かして、先ほど申したように、無理なく、繋げて、価値付けしていくことが大事だと思います。

ご案内のように、土日の部活動についても、豊田市は令和5年度から、地域移行を進めています。地域や家庭から理解を得るためには、コミュニティ・スクール構想を使って、地域と連携していく必要があるということで、どの学校も前倒しに前向きに取り組んでいます。

小学校においてもコミュニティ・スクールの設置を順次進めます。今まででも、登下校指導やいろいろなボランティア活動という形で連携しておりましたので、それらを生かしながら、例えば小学校と社会福祉協議会と連携して、福祉と繋がる家庭の対応をコミュニティ・スクールの柱にしてはどうかとい

う話も出てきているので、そのような無理なく繋げる活動が小学校でもうまく進められると良いと思っています。

次に成果と課題について説明させていただきます。

成果についてですが、生徒からは自分たちが学んだことを聞いてもらえたとか、採用してもらえたことによって、もっと意欲が沸いて、繋がりたいという気持ちになったとの感想がたくさんありました。特に、モデル校である三好中学校の関わった生徒たち、また、地域の人からももちろんそうですが、先生方についても、学び合いの学習環境づくりにこの連携が役に立ちそうという声がありました。まさに、みよし教育プランの基本理念である「学ぶ楽しさで人と人をつなぐ」に向かっていると感じています。

小学校でも、数年後にはこういう連携が進むといいなと思っています。また、行政の中にもコミュニティ・スクールや連携についても、理解が深まってきたと思っています。これまでは出前授業のような単発の連携はありましたが、持続的な活動にするためにはどうしたら良いか。コーディネータ次第で敷居が下がることによって、子どもたちのためにいきいきした活動ができるのではないかと思います。

例えばスポーツ課については、カヌーや、スポーツ教室などがあります。その他にも福祉課、長寿介護課、産業課、シトラスリボンで連携した市民課、社会福祉協議会などとの連携について、声をかけていただいております、大変ありがたく思っています。

同時に地域やPTAについても、先ほどの草刈り活動や北中学校では、先日、防災について区長さんと一緒に考えたいということで、学校評議員会に生徒会の生徒が入り、区長さんと語る会のようなことを開催したら、地域も何かやらなければということになり、三好丘緑や三好丘旭行政区の人達と一緒にワークショップを開催しました。

最後に課題について説明させていただきます。

最初に、学校についてですが、学校が地域に開かれたということについて、どのように教育課程に生かしていくか。また、そのメリットをどのように先生たちと共有しながら、子どもたちの意見を聞いていくかということについて研修を続けなければいけないというのが課題です。

それとともに、教育委員会としましては、その学校や地域の実態に合わせてどう伴走していくかということが、課題になっています。

次に、コーディネーターの人選ですが、どのような方になっていただくということが重要です。何度も相談をしながら、思いを一緒にして熟議しながら、どのようにしていくかということが難しいところだなと思います。

研修についても、愛知県や文部科学省から、アドバイザーやコンサルタントを派遣していただくようなことも、令和4年度以降もあるといいなと思っています。

また、行政にも理解をしていただく必要があると思います。私が頑張らなければいけないことだと思ったり、家庭や地域に向けて、本日お話しさせていただいたような、ここがふるさと、学校もふるさとだと思うので、ふるさとという意識を持ってもらえるような繋がりを作り啓発していくことが課題です。

	<p>ゆくゆくは、その学校だけではなく、地域の中に困った方がいると思っただけから助け合うとか、先ほどのお祭りの人手を集めるとか、後継者が地域に育ちやすくなるとか、なかなか市外に出て戻ってこない人たちが、あそこの地域で世話になったので、それじゃあ地域に帰ってみるかと言ってもらえたりとか。そんなまちづくりに、このコミュニティ・スクール構想が貢献できるという夢をもって頑張りたいなと思います。聴いていただいて、ありがとうございました。</p>
議長（市長）	<p>説明が終わりましたので、各委員の方々からご意見等いただきたいと思います。</p>
鈴木委員	<p>事務局にお聞きしますが、コミュニティ・スクールの活動を進めていくためには、学校運営協議会と地域学校協働本部があり、この2つが連携し、手を取り合って、地域学校協働活動を進めていくものだと思います。</p> <p>そこで、まず、みよし市版コミュニティ・スクールとしては、学校運営協議会を主体として、今後、地域学校協働本部を成熟させていくと思います。</p> <p>今年度は先行して三好中学校で運営協議会を立ち上げましたが、地域学校協働本部との関連が現状ではどのような状況かお聞きしたいです。</p>
学校教育課 コミュニティ・スクール 担当	<p>仕組みにつきましては、お配りした資料の2ページ目の図をご覧ください、学校運営協議会のことをコミュニティ・スクールと言いまして、まず、こちらを整備することを主体に考えています。</p> <p>この中から地域学校活動推進員（コーディネーター）という方を選んでいただき、地域学校活動推進員（コーディネーター）が学校の求めやニーズに応じて、地域学校協働本部に連携をしていただきます。</p> <p>まず学校側のコミュニティ・スクールがあつて、地域学校協働本部へ繋ぎ、ゆくゆくは、地域住民、保護者、PTAという方たちが総がかりで参加できるような仕組みを、学校や地域の特性に応じて、コーディネートしていくことを無理なく進めることができるように、まず学校から始めることを考えております。</p>
議長（市長）	<p>いかがでしょうか。</p>
鈴木委員	<p>地域学校協働本部は現在立ち上げられているか未完成かどちらでしょうか。</p>
議長（市長）	<p>はい、説明をお願いします。</p>
学校教育課 コミュニティ・スクール 担当	<p>コーディネーターが選ばれた時点で地域学校協働本部がスタートしたという認識です。</p>
鈴木委員	<p>具体的には、協働本部を構成する諸団体とのコンタクトはまだ取れてない</p>

		<p>という状況か進めつつあるという状況かどちらでしょうか。</p>
議長（市長）		<p>はい、説明をお願いします。</p>
学校教育課		<p>団体というのをどう捉えるかですが、先ほどご説明したように、地域住民や市役所やPTAなどとの連携はもう始まっています。</p> <p>そのため、コーディネーターから頼まれたところにいろいろな人たちが共有して参加するという体制はもう動き始めていると認識しています。</p>
議長（市長）		<p>組織体としてあるかどうかという意味ですか。</p>
鈴木委員		<p>そうですね、一番肝心なのが、実際に活動するのは学校運営協議会よりも、地域学校協働本部であり、協働本部がしっかりしないことには、具体的には進んでいかないのではないかと考えておりますので、今現在がどのような状況かということをお聞きしました。</p>
議長（市長）		<p>よろしいですか。はい、近藤委員。</p>
近藤委員		<p>あと豊田市だと、地域学校協働本部が実質的に立ち上がっています。学校運営協議会というのはPTAの役員をやった方々などどのような活動かわかるとは思います。一般の方は地域学校協働本部の構造として、市が持って、教育委員会が持ってとか社会教育も含めて、そういう新しい流れを作っていく認知、基本的には皆さんが認知していないと、やりたいなと思っていても駄目なので、やりたいなというのと、認知を広げていくのは多分両方一緒だと思うんですね。認知を広げていくためにどういう作戦や構想があるのかの説明をお願いします。</p>
議長（市長）		<p>はい、説明をお願いします。</p>
学校教育課 コミュニティ・スクール 担当		<p>三つほどプラスアルファということで、まず、役所自身や自分自身が、例えば区長会でお話をさせていただき区長に連絡させていただき、いきいきクラブの総会でお話をさせていただき、民生児童委員の研修会でお話をさせていただきというような、地域の方にわかっている努力をするというのが一つ。</p> <p>二つ目は何といてもやっぱり子どもからの発信だと思うんです。子どもがやりたいことを、まずはそのコーディネーターさんと学校等が中心になって、自分の「おらが地域」に広めながら、12校が独自にマッチングを図っていくことが必要です。その発信の仕方については、これから考えていかなければいけないところだと思います。</p> <p>三つ目については我々が、例えばホームページや広報みよしなどで活動をPRして、このような連携が有効なんだということを広めていくような作戦をゆくゆく考えていきたいと思っています。</p>

近藤委員	いいですか。
議長（市長）	はい。
近藤委員	<p>今、質問したのは、大綱の3番目に「ふるさと」という言葉が出てきており、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部が、組織的には一番重要、支えるベースになると思うからです。</p> <p>この辺りのベースの組織をきちんと計画的に進める作戦が必要です。紙に書いてあるだけでは動かないので、その辺をしっかりと皆さんが認知しながらこの全体の中で、今、自分はこの部分をやっているんだという活動意識を持ち、ただ、ちょこちょこやって、やったと満足するのではなく、大きい視点で見て、ここを自分がやるっていうその意味付けというのは、とても大事じゃないかなと思います。だから、その活動の意義を、活動する人が認知しながら活動した喜びを感じられるような、そういう枠組みを考えるのはやはり行政、特にこの場合だと教育行政と社会教育だと思います。本当に、良い作戦を考えてやっていただきたいです。多分現実的には、まだ教育委員の私もみよし市の地域学校協働本部が何をやっているのか、何をやろうとしているか知らないレベルなので、どうやって知らせていくのかということについて、もし、もうちょっと担当の方で詳しい計画があれば、教えていただきたいなと思います。</p>
議長（市長）	はい、説明をお願いします。
学校教育課 コミュニティ・スクール 担当	<p>今後どう啓発をするかということやスピード感も必要ですし、まずはそれにどう賛同してくれる仲間を作っていくかという作業するには学校や子どもからだろうと思っています。ガチガチの仕組みとか企画とかをするのは、もう少し先ではないかと個人的には思っています。逃げているわけではなく、もう少し状況が変わってきた段階で、学校はこういう制度でいきましょうとか、こういうのもやっぱり入れましょうとなっていくように、今、種まきして水をあげている段階であると思っています。</p>
議長（市長）	はい、教育長。
教育長	<p>教育委員さんへの説明もまだ不十分だということで、教育委員会事務局が中心となり、学校評議員制度から、学校運営協議会、そしてコミュニティ・スクールへと進めていく上での要になっていただく部分を担当者にお願いしました。担当者が説明したように、今はまだ本当に何ができるかということを探ってきている段階です。三好中学校で試行的にやった中で、どのような団体が動いてくれそうか、行政としては協働推進課や企画政策課などと連携が取れそうとか、いきいきクラブ、文化協会のような団体やトヨタ自動車のような企業とも連携が取れそうだった地域学校協働本部のどのような人たちと繋がることができそうかということを探ってきています。活動がだんだん定着してくると、組織の中で、連携協議会や打ち合わせを開催しましよ</p>

		<p>うということになり、組織が確立していくのではないかと思います。組織をガチガチに固めてからスタートするのではなく、まずは何ができそうかどうかを探り、動くようになったら、組織づくりを考えて、無理がない状況で子どもたちの様子を見ながら、学校の状況を見ながらやりましょうと担当には話をし、今本当に繋がりができつつあると思っています。</p> <p>近藤委員がおっしゃるように、最終的にはどの団体が入って、年に1回か2回は連絡会を開催したいですねというふうに持っていけることができればいいと思うのですが、まだ、そこまではいっていないという段階です。令和4年度は各中学校でスタートするわけですが、まだどこと繋がることができそうかとか、どんな活動ができそうかとか、中学校区でも特色が違いますので、先にいろいろな組織と繋がる場所もあるだろうし、地域の人と繋がる場所もあるだろうしということで、それは学校の特色に応じてうまく繋がることができそうなどを探りながらということになると思います。しっかりした組織づくりをイメージはしていますが、組織を作ってから動き出しましょうというところはまだちょっとこれからかなと思っています。</p>
議長（市長）	近藤委員、よろしかったでしょうか。	
近藤委員	近藤委員	<p>付け足しですけど、地域の行事に参加した時に、必ず主催者や責任者が「あなたたちの活動は、こういう意味で役に立っているんだよ」という一言を付け加えていただくと、小学校低学年は難しいかもしれませんが、中学年、高学年、中学生はわかると思います。福谷でも区のいろいろな行事にボランティアでやってくれた人に図書券をお礼として渡す時に「ありがとう」と言うんですけど、区長さんや部長さんが渡す時には、「こういう意味で、この地域のためにやってくれて、こういうことに貢献したんだということを後輩にも伝えてね」とか、「地域を良くするための活動の一環だよ」とかいうのを必ずお伝えすべきです。今やっているかどうかは知らないけれども、私たちがやっていた時には意識的にそういう風にしてもらっていたんです。ただ、「はい、ご苦労さんね」で渡しては駄目だよと。そういう意味付けを必ず言葉で「君たちがやったんだよ」というその一言を言ってもらったんですね。今、それぞれの部署でやっていますが、地域学校協働本部のイメージのマッピングを頭に入れながら、「君たちはこの部分をやった」ということに意味付けしていただけるのをもう少し強力にさせていただくと、子どもたちの頭の中に小さいうちから入ってきます。「僕はこの部分を担ったからすごいよ」と言い、家に帰ると「貢献したね」と褒めてもらえる。そういう意識を子どもに植え付け、組織と一緒にその意識を高めていくとよりいいのかなと思います。</p>
議長（市長）	議長（市長）	はい、教育長。
教育長	教育長	<p>いつも近藤委員からご指摘を受けるように、三好中学校がメタ認知を振り返ることで価値付けをするということをワークシートに書いており、三好中学校は成果が出ております。その取り組みについてはこれから取り組む中学校にも知らせて、必ずその意味や意義について子どもたちに伝えるようにと</p>

		<p>いうことを共有していきたいなと思っています。</p> <p>活動の内容だけを広げるのではなくて、そういう意識のところが忘れないでいきたいと思います。</p>
	議長（市長）	よろしいですか。
	近藤委員	はい。
	議長（市長）	その他にご意見ございますか。
		はい、原口委員。
	原口委員	<p>コミュニティ・スクールはコミュニティ・スクールとして、この地域学校協働本部は最終的にはどこの団体にも属さない地域住民が参加してくれることが大変重要なことだと思っています。现阶段でどこの団体にも属していない地域の人を拾うのは難しいと思いますが、最終的にはその部分にも目を向けて、どこの団体にも、例えばいきいきクラブについて「私はまだそんな年齢ではないわ」と言って加入を渋ってらっしゃるような方もいらっしゃいます。みよし市で生活するということが、有用感を持っていただくようなことを思っただけのように、最終的にはどこの団体にも属さない地域住民を引っ張り出すように持っていけたらいいなと思っています。</p>
	議長（市長）	はい、教育長。
	教育長	私もそう思います。おっしゃる通りですね。皆さんが入ってくださって、子どもと皆さんだけではなくて、皆さん同士も繋がってくださるということのできたらということを理想として持っていきたいと思っています。
	議長（市長）	加藤委員よろしいですか。
	加藤委員	<p>市外でコミュニティ・スクールの、先ほどの一般の地域の方っていうのもあるんですけど、普通にこうチラシで「ボランティアさんを募集します」みたいな告知をしている市もあるようですが、そういうのをやられてもいいのかなと思います。うちは中学生ですが、以前のメールを見直してみたら、「草刈りボランティアさんを募集します」という募集で来ていて、「どなたでもいつでも来てください」というお知らせだったので行くことにしました。それともう一つ、中学校3年生が地域の人と掃除をしたいというお知らせがありました。が、「行きたいけど、どうしようかな」と迷っちゃうところも皆さんあって、こちらから「一緒に草刈りあるんだけど行かない」と声をかけると、「誘ってくれてありがとう」と、他の保護者の方からも言っていたりしました。もうちょっと気軽に、私が例えば応募して、そこに名前が載っていて、いつでも行っていいんだよっていう形だと、もうちょっと敷居が高くないというか、行きやすいかなっていう気もしました。自分の中学校だけじゃなくて、子どもが卒業した小学校でも行けるような。</p>

議長（市長）	<p>よろしいですか。 はい、説明をお願いします。</p>
学校教育課 コミュニティ・スクール 担当	<p>皆さんに知っていただくとか、ハードルを下げに来ていただくっていうことは、今後も工夫を続けなくてはいけないなと思っています。例えば、三好中学校では、先生たちや校長名もいいけど、コーディネーターさんや子どもが手書きで来てくださいと通知したことに対し、そのお礼や「子どもの字はいいね」という声をいただきました。そういう方法を考えたり、小学校の中でもいくつかの学校が保護者ボランティアをやり始めているところもあるので、親子同士でそうやって認知され、広がることによって、ここに集まっているんだというふうに、少しずつやっていけるといいなと思っています。</p>
議長（市長）	<p>他にございませんか。 はい、原口委員どうぞ。</p>
原口委員	<p>先ほどこれまでの活動でおっしゃった中にいろいろな部署との連携があるので、ぜひ縦割り行政じゃなく、横の繋がりをどんどん広げやすくしていただけるように、市長からもご助言をいただけたらありがたいです。</p>
議長（市長）	<p>承知しました。 他にはございませんか。 よろしいですか。 それでは、それぞれ皆様からご意見をいただきました。 他にご意見も無いようですので、私からも一言だけということで、本当に皆様から大変大切な視点をたくさんいただいたと思っていますし、そうした中で、コミュニティ・スクールが来年度からまた各学校に広がっていくところで、それぞれやはり地域の特色がある中、子どもたちあるいは地域の社会資源も違う中でのそれぞれの違った取組もしていくんだらうなというふうに思いますし、これから各学校、地域が中心となってですね、より良いものを作っていくというところで進んでいくと思いますので、これからぜひ私も期待をしたいと思っています。先ほど山内先生の方から、冒頭に学校の役割はいくつかある中で、一つは子どもたちの未来を作っていくんだっていうお話もありました。やはり私はこうした、今いろいろなご意見を聞いていく中で、コミュニティ・スクールという子どもたちを中心として、学校を中心として、子どもたちの地域のまさに未来を作っていくものになりうるものであるなと思っていますので、学校だけではなく、地域、保護者、いろいろな方が、子どもたちを取り巻くいろいろな方々が集まって、みんなでそれぞれ、より良いものを作っていくと作り上げていくというのがですね、コミュニティ・スクールの核になるものではないかなと思っていますので、またぜひ教育委員の皆様初め、行政の皆さん、縦割りを廃し、しっかりと横の連携を深めて、より良いものを作っていきたいなと思っていますし、今、皆様からいただいたご意見、しっかりと私たちも受けとめさせていただいて、教育行政に反映させていきたいなと思っていますので、よろしくお願</p>

4 「その他」		<p>たいと思います。</p> <p>それでは、以上をもちまして本日の議題を終了とさせていただきたいと思 います。</p> <p>続きまして、その4であります。本日の議題以外で、何かご意見ござい ましたら、挙手の上でご発言をお願いいたします。</p> <p>はい、鈴木委員。</p> <p>働き方改革ということが非常に叫ばれております。それに関連して、学校の 給食費について、給食費の徴収を、公会計にするという動きが出ていますが、 公会計にするには、会計システムを新たに構築しないといけません。長期的 にみよし市の場合は公会計化が令和7年度の目標かと思いますが、それに向 けた着実な準備を進めていかないとはいけません。公会計化することによって、 随分教職員の負担も軽減されると思いますし、本来あるべき税の使い方に繋 がってくるわけですし、滞納などに対しても、市が取り組むということで、 とにかく、先を見据えて、大変な作業だと思いますので、それを着実に一歩 一歩進めていっていただけたらと思います。</p> <p>議長（市長） 給食の公会計化と令和7年度からの会計システムについて説明をお願いし ます。</p> <p>教育部長 公会計化については、学校教育課や学校の事務担当者と研究をしておりま して、先ほど鈴木委員がおっしゃったとおり、令和7年度を目途に進めてお ります。学校の電算システムが変わると合わせてやれたらどうかと検討し ています。そのため、学校についても本年度から研修がスタートしましたが、 来年度も引き続き研究しながら、どうあるべきかということを考えていき たいと考えております。</p> <p>鈴木委員 ありがとうございます。</p> <p>議長（市長） 他にございませんか。 それでは、他にご意見も無いようでありますので、以上で本日の日程をす べて終了させていただきたいと思 います。 その他、事務局から連絡事項等がありますか。</p> <p>企画政策課長 特にございません。</p> <p>議長（市長） わかりました。以上で、令和3年度第1回みよし市総合教育会議を閉会し ます。ありがとうございました。</p> <p>企画政策課長 最後に礼の交換で終わりたいと思います。ご起立をお願いします。</p> <p>&lt;起立、礼&gt; (午後2時30分)</p>
閉 会		